

会 議 録

1 会議名

令和3年度第4回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告（公開）

勝馬投票券場外発売所立地関連地域振興基金の活用による「未来の子ども達がいっ
までも住み続けたいまちづくり」についての意見書に対する回答について
地域活動支援事業の審査結果について

（2）協議（公開）

自主的審議事項について

（3）その他（公開）

主要事業・プロジェクトの概要について

3 開催日時

令和3年6月23日（水）午後6時30分から午後7時30分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：荒川清尊、岡田龍一、高橋京子、高橋達也、竹内昭彦、竹内靖彦、
宮川昇藏、陸川昇一

・事 務 局：名倉浩中郷区総合事務所長、内藤香織次長（総務・地域振興グループ長
兼務）、宮尾広幸市民生活・福祉グループ長、教育・文化グループ長
総務・地域振興グループ・内田明浩班長、田村結花主事

〔 以下、総務・地域振興グループは総務G、市民生活・福祉グループは
市民G、教育・文化グループは教育G、グループ長はG長と表記 〕

8 発言の内容（要旨）

【内田班長】

- ・会議の開会を宣言

【竹内（靖）会長】

- ・挨拶

【内田班長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内（靖）会長】

- ・会議録確認：「荒川清尊」委員と「高橋達也」委員に依頼。
- ・報告事項（1）の勝馬投票券場外発売所立地関連地域振興基金の活用による「未来の子ども達がいっまでも住み続けたいまちづくり」についての意見書に対する回答について、事務局の説明を求める。

【内田班長】

- ・資料No. 1に基づいて説明。

【竹内（靖）会長】

今ほどの説明について質問・意見等を求める。

・・・質疑なし・・・

【竹内（靖）会長】

回答書にもあるようにこれから地域や関係者といろいろな形で協議し決めていくことになるので、承知置きいただきたい。意見書に対する回答についてはこれで了承した。

【竹内（靖）会長】

特になければ、報告事項（1）の勝馬投票券場外発売所立地関連地域振興基金の活用による「未来の子ども達がいっまでも住み続けたいまちづくり」についての意見書に対する回答については、これで閉じることとする。

次に、地域活動支援事業の審査結果について事務局の説明を求める。

【内田班長】

- ・資料No. 2に基づいて説明。

【竹内（靖）会長】

今ほどの説明について質問・意見等を求める。

・・・質疑なし・・・

【竹内（靖） 会長】

今回は当初募集提案団体がすべて採択ということや予算額についても満額有効活用できたことについて、皆様のご理解とご協力をいただいたことに改めて感謝する。提案団体についてもコロナ禍対策も十分考慮した形で事業執行に向けて動き始めている。

当区については予算額満額が有効活用されたため2次募集もなかったが、高田区については提案事業のうち半分程度を不採択として2次募集はせずに市へ返納したとの話も聞いており、区によってこれだけ差が出てくると「地域活動支援事業」の在り方や審査基準なども市全体で考える必要があるのではないかと。個人の意見ではあるが2次募集もせずに市へ返納することは、住民団体の活動を遮るような形となってしまう、それが地域協議会の権限と言えるのか疑問が残る。中郷区地域協議会としても自主的審議事項の落ち着いた頃にこうした「地域活動支援事業」の考え方とかいろんな形でコミュニケーションをとる必要があると感じた。

【高橋（京） 副会長】

その区によって地域活動支援事業の在り方については、どこかで注視していく必要があると思う。取組事業も長年続けていると内容もマンネリ化する部分がどうしてもあるので、そこはやはり襟を正さなければいけないと思う。

【竹内（靖） 会長】

どこかのタイミングで地域活動支援事業について意見交換ができたらと思っているので、よろしくお願ひしたい。

特になければ地域活動支援事業の審査結果については、これで閉じることとする。

続いて協議事項（1）の自主的審議事項について協議する。事務局の説明を求める。

【内田班長】

- ・資料No. 3及び参考資料No. 3—1に基づいて説明。

【岡田委員】

- ・参考資料No. 3—2に基づいて説明。

【竹内（靖） 会長】

子ども達が参加できる事業だが、どのような形で子ども達が事業に参画していくのか学校調整が必要となってくるが、皆さんから提案を求める。基本的に看板については専門家での作業となるため、どこまで子ども達の手が入れられるかというのもある。

また、来年度の事業として行うことになるが、実際に動き始めるまでにどんな調整が

必要なのかも今は雲をつかむような話でイメージが湧かないのが正直なところである。

ハード面に子ども達が手を施すことが難しい状況であれば、夕日ヶ丘の整備では、事業完了等に子ども達から写生大会をしてもらうとかドローンを飛ばして撮影するなど一つの方法なのかと考えている。看板の作成などは小学校高学年～中学生くらいのレベルでないと出来ないと思うので、その辺については小中学校と相談する時間が必要である。

【陸川（昇）委員】

植樹については参加できると思うが、看板を作るとなると何を描いていいのか子ども達も分かりづらいのではないかと思う。

【荒川委員】

陸川委員の言われたとおり、確かに桜の植樹については全然問題はないと思うが、看板となると我々でも難しいと思う。子ども達がどれだけアイデアを出せるかということにも係ってくると思うが、先生に相談し、どんな形を取るか決めてもらうのが良いのではないか。

【竹内（靖）会長】

看板にこだわらず学校との調整は私が責任を持ってやらせていただく。ただ、縄文公園の看板については、縄文学校や高橋（京）副会長もいるのでいろいろなアドバイスをもらいながら中学生でも作れるのではとないかと思っている。学校との打合せの時間があるので、その中で事業の話や来年のプログラムをどのように入れられるかなど話をさせていただく。桜の植樹については、記念樹という形で一緒に植えられるようなセレモニー的な感じで行えばいいかと考えている。

講演会については岡田委員より説明があったが、村越委員と陸川（陽）委員の3人に集まっていたき事業計画とアンケートについて資料を用意していただいた。アンケート対象者が今のところ小中学生と保護者となっているが、小学生で言えば1年生から6年生まで年齢の幅がある。保護者にも子どもにもアンケートを出すのではなく親子の会話を通して回答してもらおうということで、各家庭に1通でどうか。また、高校生の意見も本当は集約できればと思っているが、その方法が見当たらない。皆さんの意見を求める。

【宮川委員】

会長が言ったとおり小学生には難しいところもあるので、家族で1つの会話をする

機会としてもらい、家庭で1件という形にしてはどうか。高校生の方はいろんな考えを持っているのでおもしろいと思うが、集約するのが難しい。

【岡田委員】

子どもと保護者を分けたことは、始めは同じく1つにまとめればという意見もあったが、そうすると親の意見が強くなり子どもの意見ではなくなるのではないかということで、別々とする事とした。皆さんの意見にあったように会話をする雰囲気をつくることは大事なので、たとえば低学年は保護者と一緒に考えてもらうというのもひとつかなと思っている。また、高校生の意見については、二本木駅にボードを置いてそこで回答してもらうような方法であれば通学する生徒の意見はとれると思っている。

【竹内（靖）会長】

岡田委員の意見についてどうか。

【竹内（昭）委員】

低学年はアンケートは難しいと思うので、保護者と相談して記入することとして、高学年と中学生は親との意見の違いを見るためにも分けた方がいいと思う。高校生については、駅での調査でいいのではないか。

【竹内（靖）会長】

アンケートは5つのテーマ選択からとなっているが、提案は求めないのか。また、学校経由でのアンケート依頼になるので添書が必要になる。

【陸川（昇）委員】

兄弟が複数の場合はどうなるか。低学年は親と一緒にとなり高学年に2人いれば、家庭に3枚のアンケートがいくことになるが。

【岡田委員】

低学年は児童を通じて保護者に渡るようにして、高学年はクラスのその場で記入してもらい先生が即回収するようにできないか。

【高橋（京）副会長】

配って集めるくらいであれば学校の方も協力してくれると思う。

【高橋（達）委員】

アンケート自体は賛成であるが、小学生低学年から高校生となるとなかなか絞り込みができないので非常に難しいのではないか。「こんな子ども達に育ててほしいんだよ」というような内容を含んだ講演であってほしいと思っている。そんな思いが込められ

た講演をいくつか挙げてアンケートした方がよいのではないか。

【岡田委員】

高橋（達）委員の提案が一番いいかと思うが、ただ、当初の目的は子ども達が参加できる事業ということであるので、やはり一方的に決めるのではなく、もちろん最終的な人選はこちらで決めることになるが、ある程度子ども達の意見を優先することも大事ではないか。

【竹内（靖）会長】

そうするとやはりただ単に学校に配布を依頼し回収するだけだとなかなか思いが伝わらないので、学校へ出向いてしっかりと訴えかけることが必要かと思う。学校と調整し、どこかで時間を作ってもらえるようお願いすることとする。

【高橋（達）委員】

オンラインとあるが、それは決定事項か。

【岡田委員】

今後のことである。こういうことも考えてはどうかということである。有名人を呼んだ場合、は一とぴあ中郷に入りきれなくなる場合もあるのでオンラインで見てもらえたらどうかということである。

【竹内（靖）会長】

予算に見合う、子ども達の心に残る講演ということでアンケートの結果がどこまで反映されるかというところもあるが、事業を検討していた時に「子ども達を巻き込んで思い出に残る」というコンセプトがあるので、その辺は変えないで学校と調整しながら資料の準備をお願いしたい。

【竹内（靖）会長】

最後に維持管理体制の確立というか、今後、大金を使っていろんなことを整備するからには、地域がやるべきことも課題として出てくる。どんな形とするかいろんな団体と意見交換していく必要があると思っている。マンパワーが必要となるので団体に丸投げするのではなく地域全体で取り組むような方法を協議していきたいと思っている。

ただし、維持管理内容によっては地域で出来る部分と出来ない部分がどうしても出てくると思うので、その辺も少し整理して進めていく必要がある。

【高橋（達）委員】

今後の協議については、段階的に進めていく中で、毎回の地域協議会で協議してい

くのではなく、グループに分かれて分科会のような形で協議していったらどうか。普段の協議会では市からの報告事項や諮問答申なども出てくるかもしれないし、地域としての新たな自主的審議事項の協議も始めていかなければと思うので、部会として行ってはどうか。

【竹内（靖）会長】

当初設定した班を活かして協議することとしてよいか。その班の中で子ども達がどのように参画できるかということと、維持管理についてはどんなことが挙げられるかなどをまとめて次回の地域協議会までにまとめてほしい。講演会の方はアンケートを実施しなければいけないので早急をお願いしたい。

【岡田委員】

次回の地域協議会の前にアンケートを実施してよいということか。

【竹内（靖）会長】

夏休みも絡んでくるのでアンケートについては実施してほしい。アンケート内容については担当班に一任するというのでよいか。

・・・全員賛成・・・

【竹内（靖）会長】

特になければ、協議事項（1）自主的審議事項については、これで閉じることとする。
事務局他に何かあるか。

【内田班長】

・「主要事業、プロジェクトの概要」の配布について

【竹内（靖）会長】

委員の皆さんから、何かあるか。

【高橋（達）委員】

会長からも話があったが、地域活動支援事業について多額の残金を追加募集もしないで市へ返上したということがあったが、どのような経緯か知りたい。

【名倉所長】

公表されているので確認する。

【竹内（靖）会長】

私が聞いた内容では今まで採択されていた事業についても採択されなかったほか、新規の団体も採択されずに、不採択の理由説明もなかったとのことである。紙面による

点数での不採択の通知は送られてきたとのこと。不採択となった団体も納得がいかない様子の中で、2次募集もされていないとなると活動支援事業の在り方そのものを否定しているような形とみられるので、その辺の市全体の検証も必要となってきたのではないか。

【竹内（靖）会長】

他に発言がないため、これをもって、本日の会議を終了する。

次回の会議は、7月19日(月) 午後6時30分から、「中郷コミュニティプラザ」で行うこととする。

(終了 午後7時30分)

9 問合せ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165)

E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。